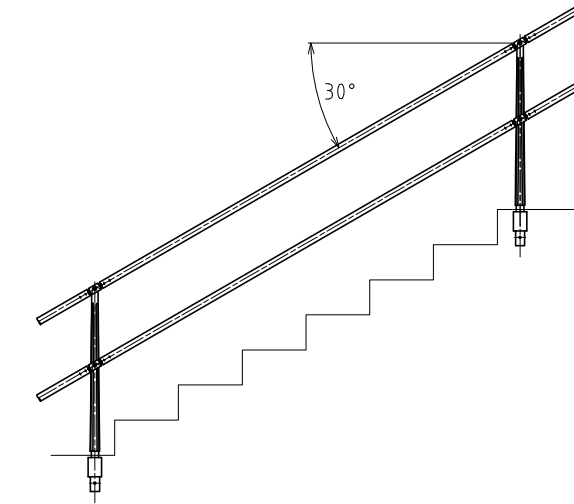
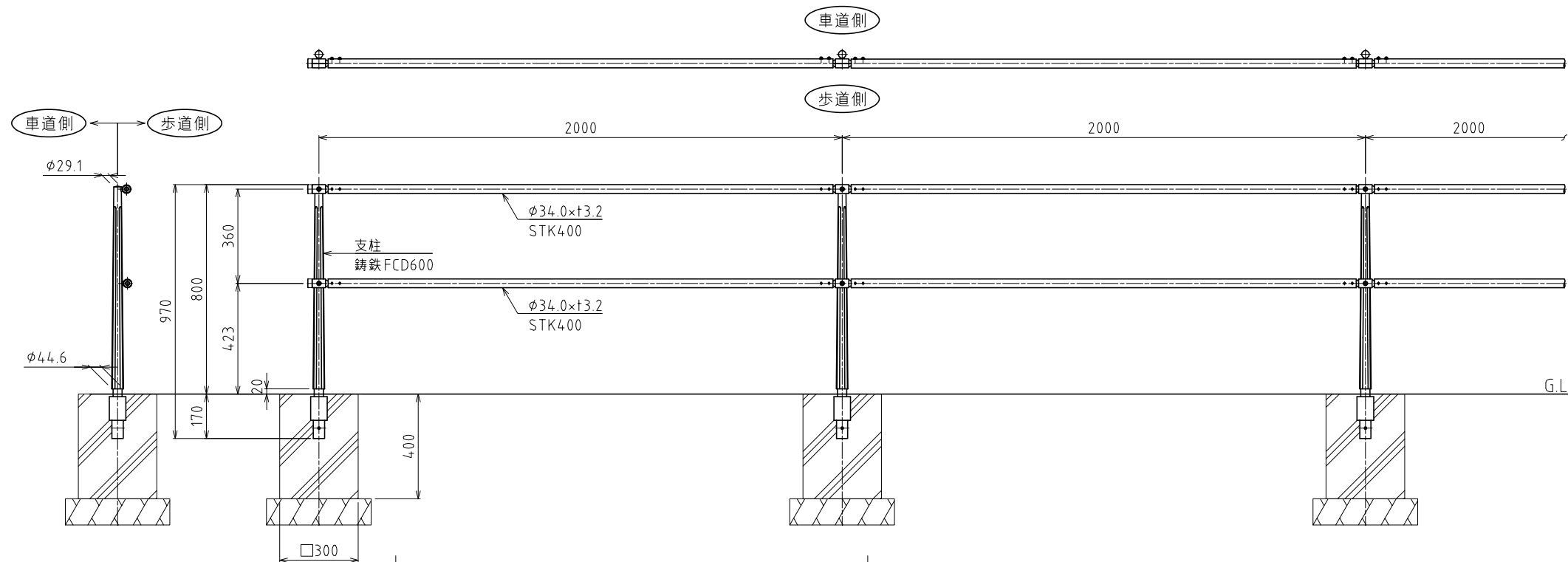
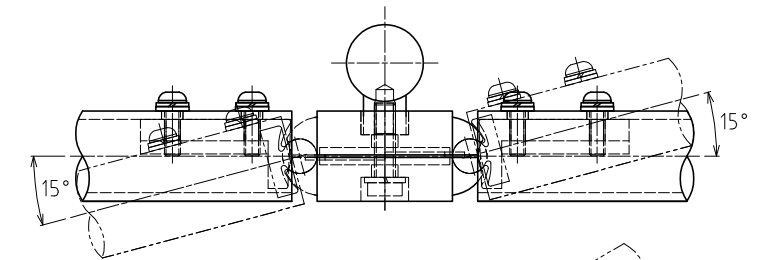


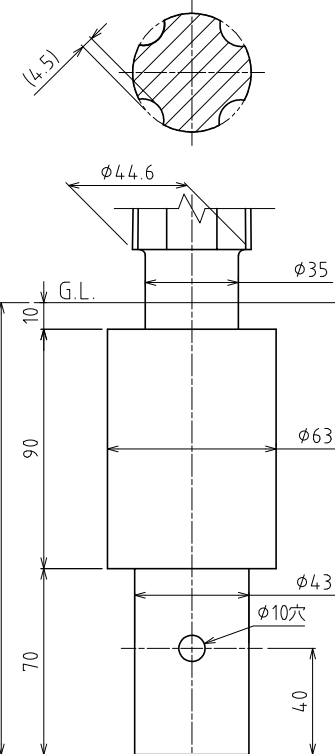
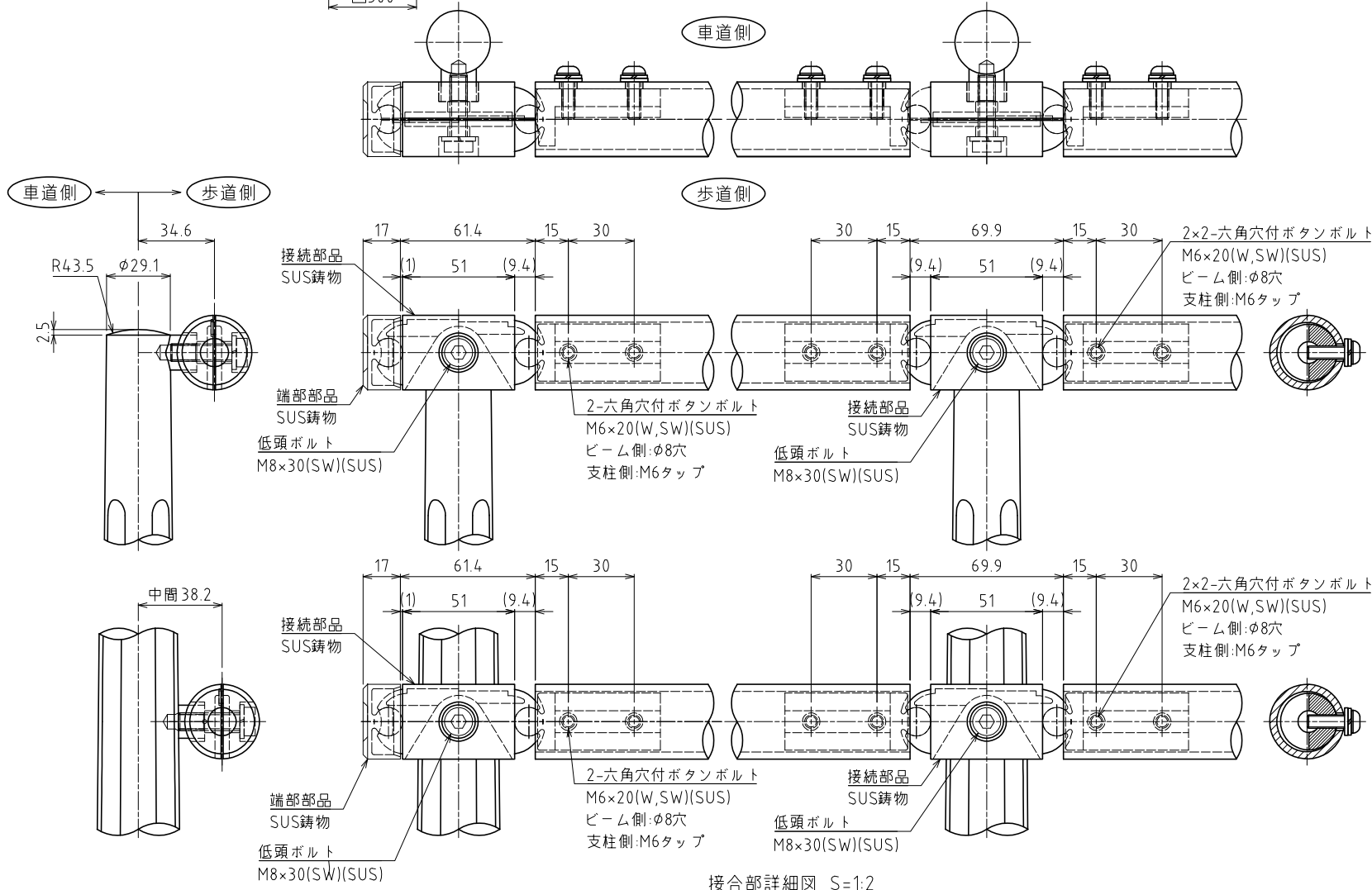
横断防止柵 YF-GSC-080(基礎:コンクリート) S=1:15 (用紙A2)



勾配可動図 S=1:25



接統部可動域図 S=1:2



地際部詳細図 S=1:2

接合部詳細図 S=1:2

記事

1表面処理

鋼製部:溶融亜鉛めっき(HDZT77、HDZ55)後、ステンコート塗装仕上げ。

ただし、板厚6.0未満はJIS H 8641に基づく。

鑄鉄部:亜鉛溶射後、ステンコート塗装仕上げ。

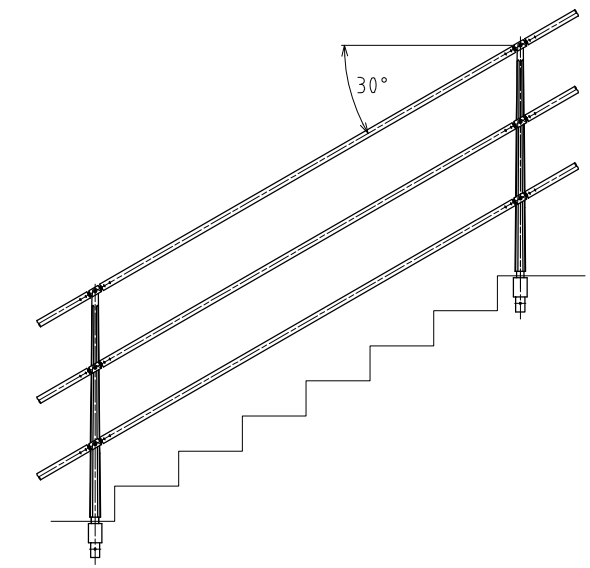
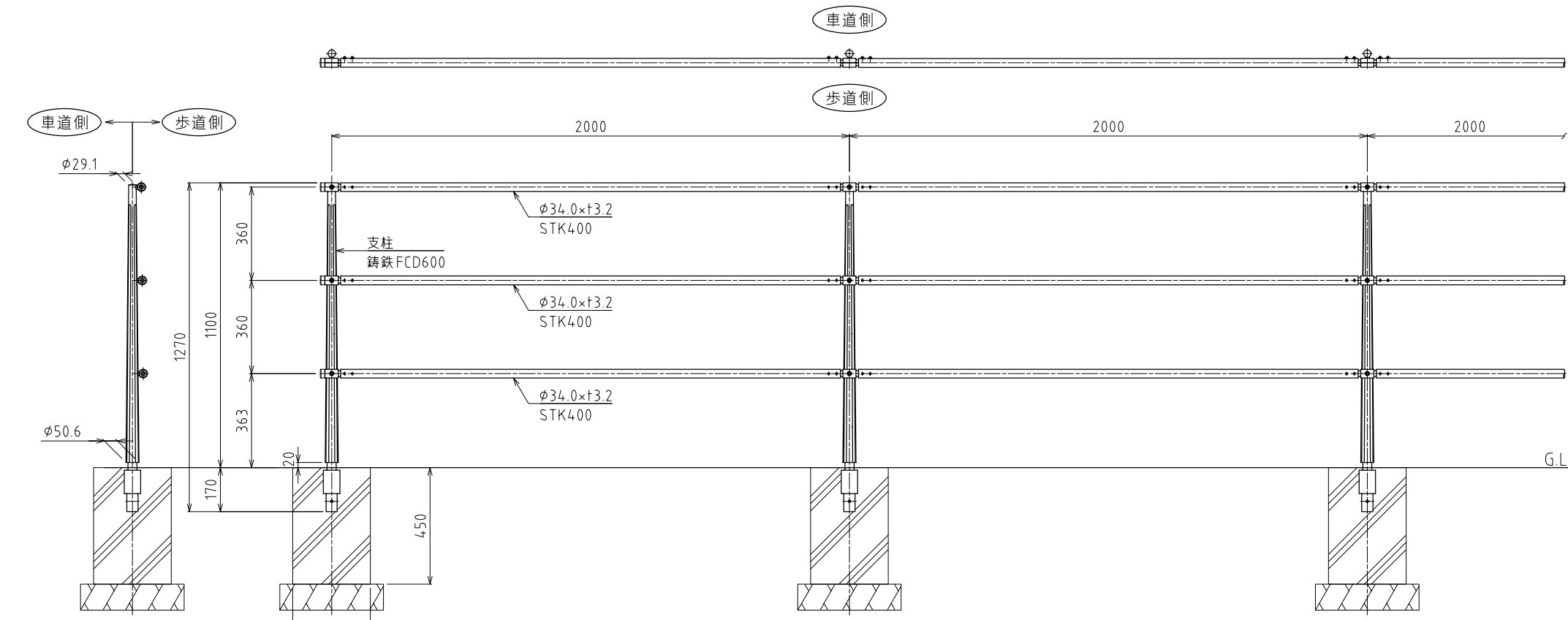
SUS鑄物部:プライマー処理後、ステンコート塗装仕上げ。

2指定色:

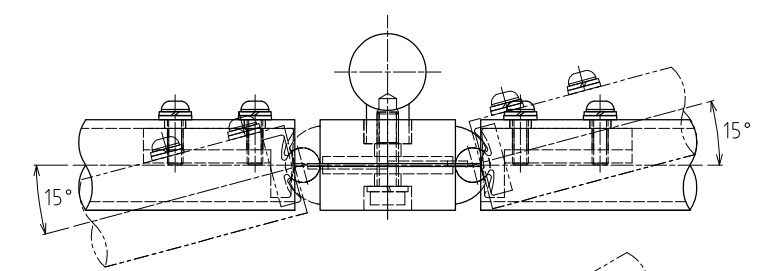
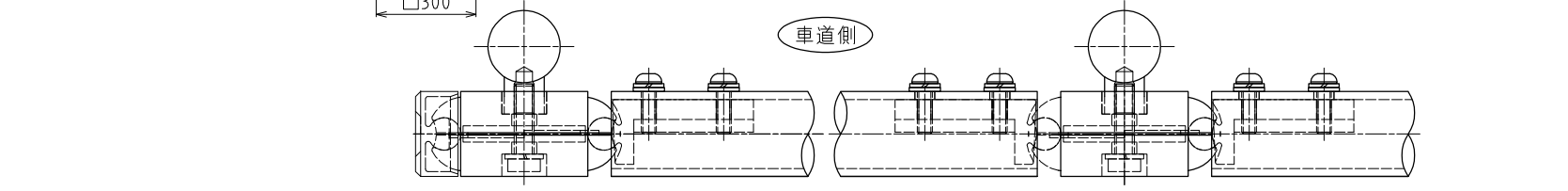
3鋪装厚を考慮し基礎天端がG.L.下となる場合は、支柱下端に単管を用いて基礎への埋込み長さを調整する。

\*改良の為、一部仕様を変更する場合がございます。

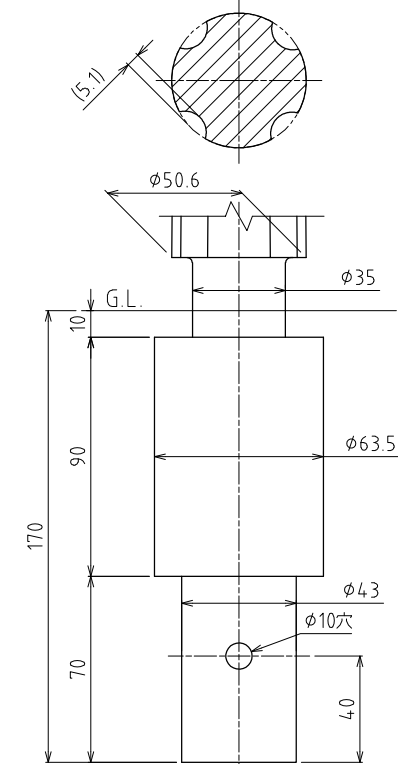
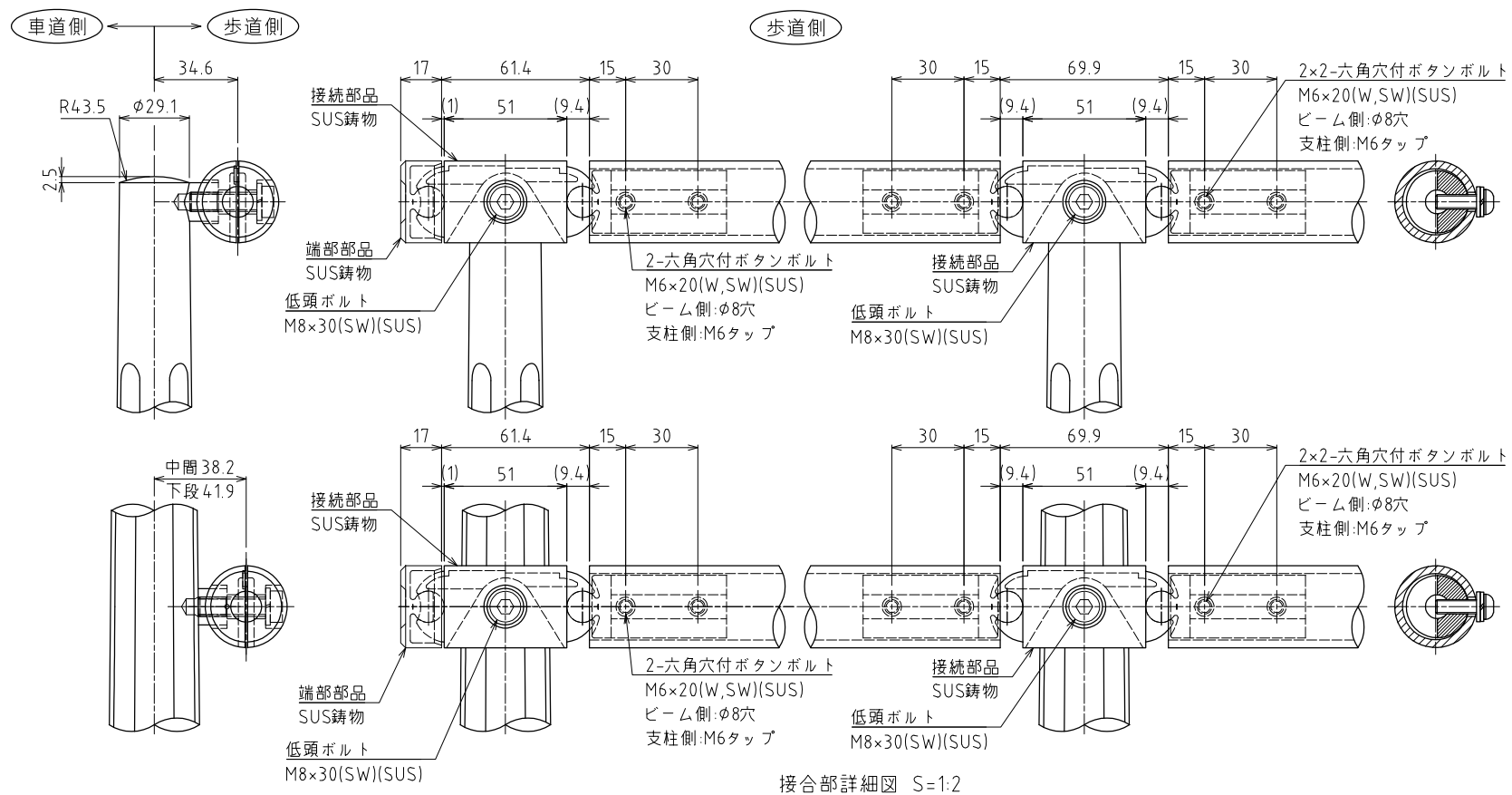
転落・横断防止柵 YF-GSC-110(基礎:コンクリート) S=1:15 (用紙A2)



勾配可動図 S=1:25



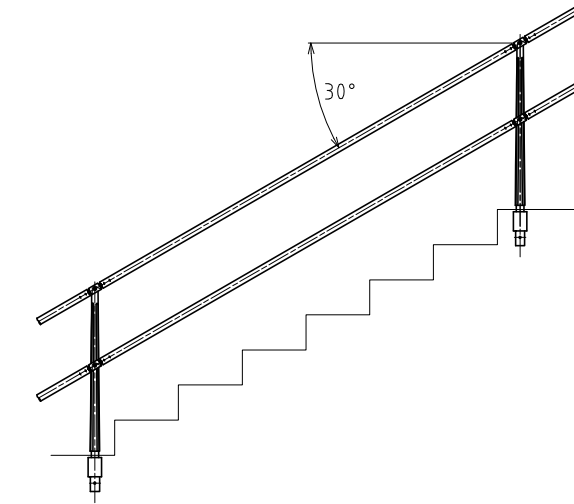
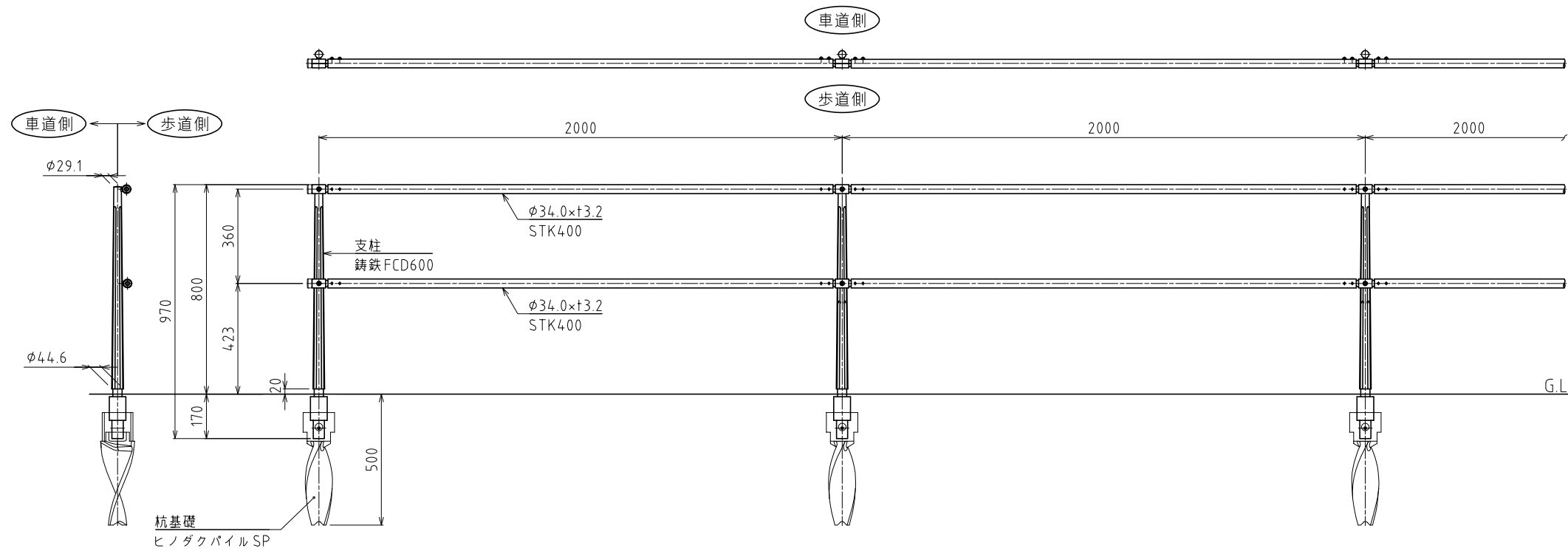
接続部可動域図 S=1:2



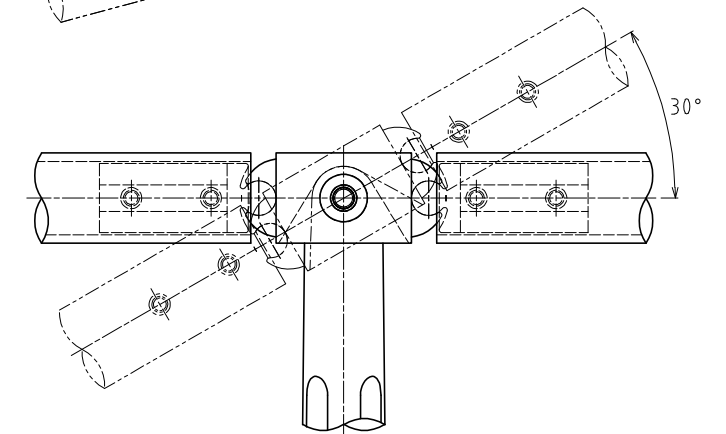
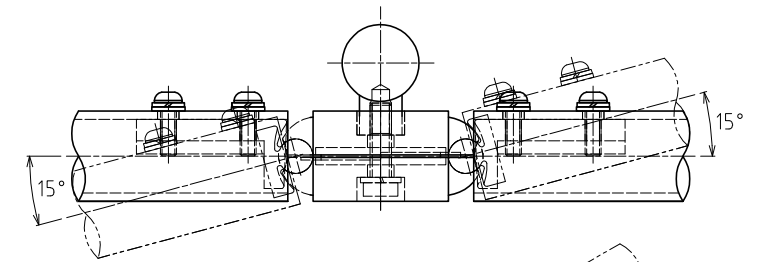
地際部詳細図 S=1:2

- 記事
- 1表面処理  
鋼製部：溶融亜鉛めっき(HDZT77、HDZ55)後、ステンコート塗装仕上げ。  
ただし、板厚6.0未満はJIS H 8641に基づく。  
鋳鉄部：亜鉛溶射後、ステンコート塗装仕上げ。  
SUS鋳物部：プライマー処理後、ステンコート塗装仕上げ。
  - 2指定色：
  - 3舗装厚を考慮し基礎天端がG.L.下となる場合は、支柱下端に単管を用いて基礎への埋込み長さを調整する。
- ※改良の為、一部仕様を変更する場合がございます。

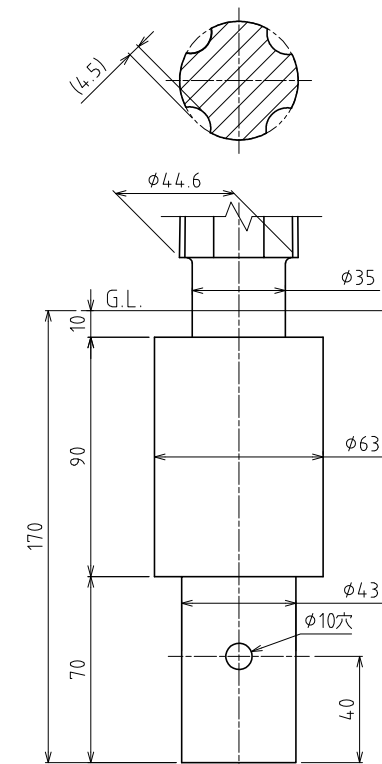
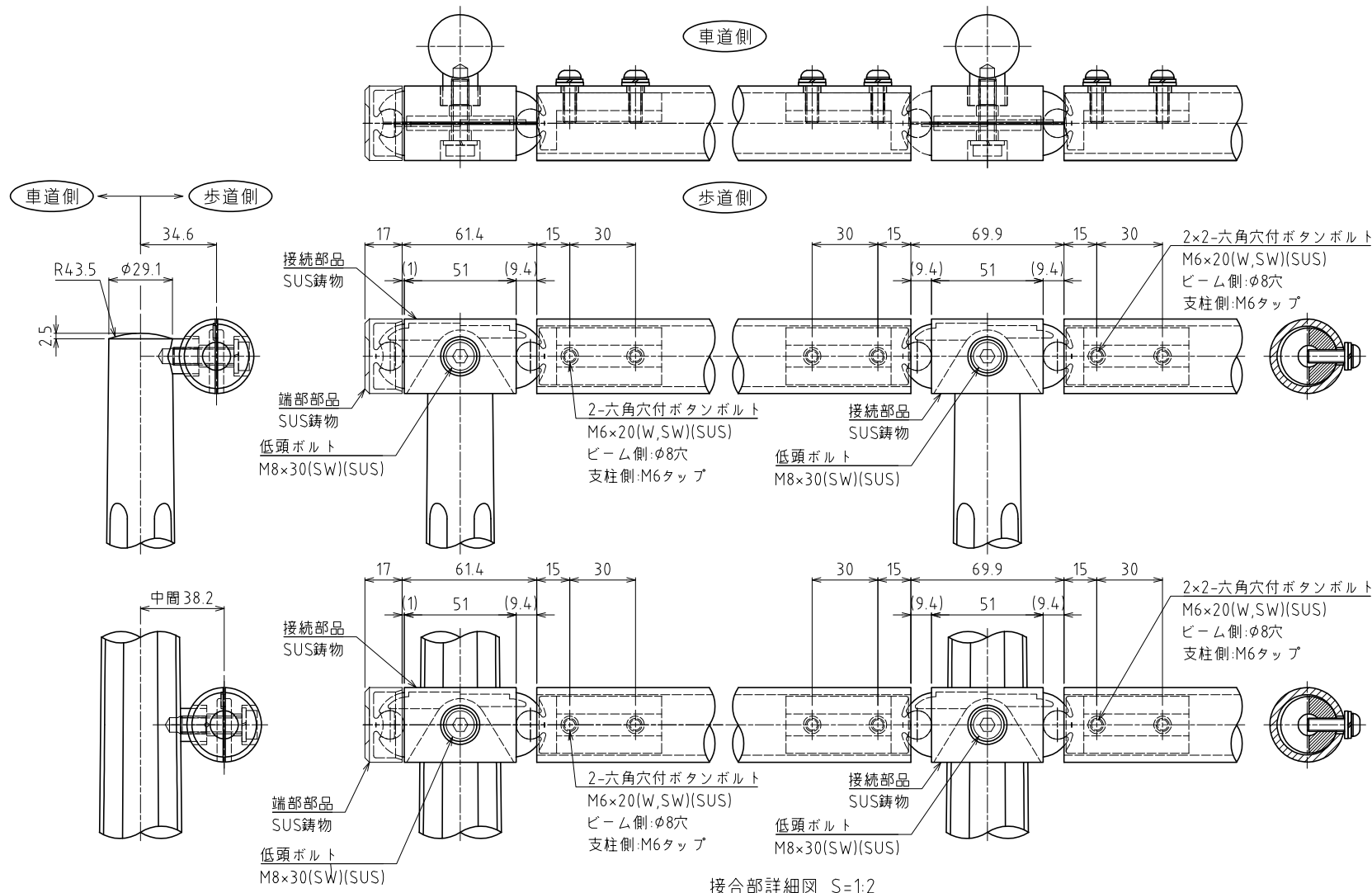
横断防止柵 YF-GSC-080(基礎:ヒノダクパイルSP) S=1:15 (用紙A2)



勾配可動図 S=1:25



接続部可動域図 S=1:2



記事

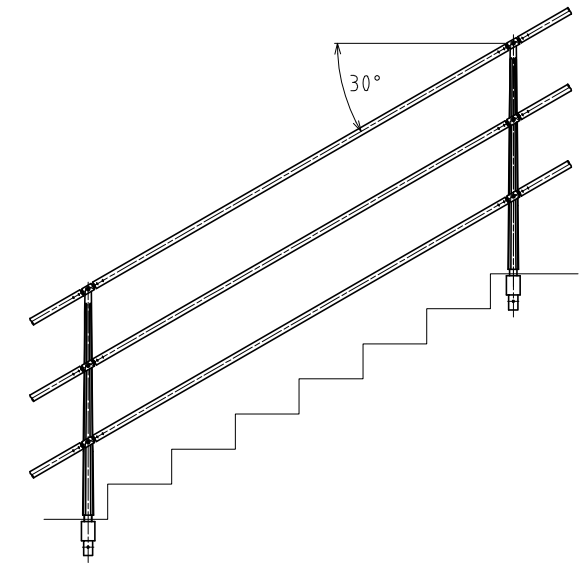
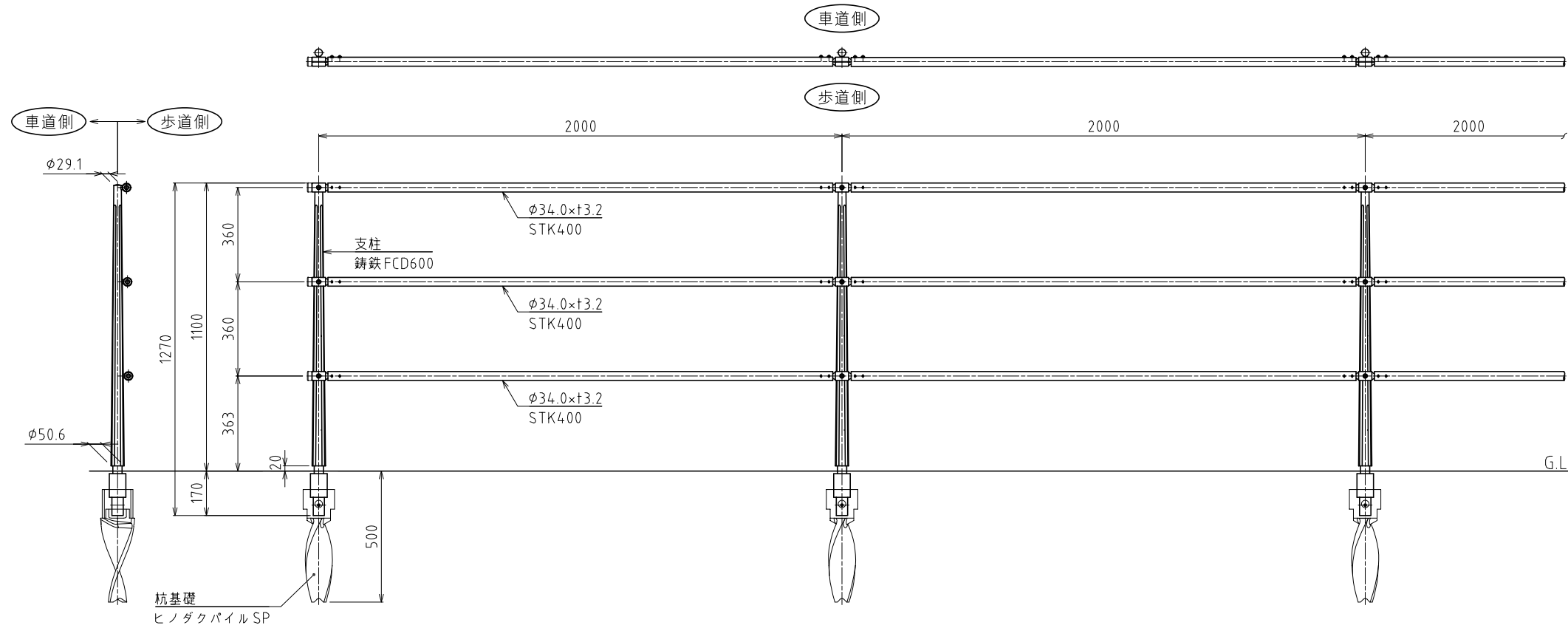
1表面処理  
鋼製部:溶融亜鉛めっき(HDZT77, HDZ55)後、ステンコート塗装仕上げ。  
ただし、板厚6.0未満はJIS H 8641に基づく。  
鋳鉄部:亜鉛溶射後、ステンコート塗装仕上げ。  
SUS鋳物部:プライマー処理後、ステンコート塗装仕上げ。

2指定色:

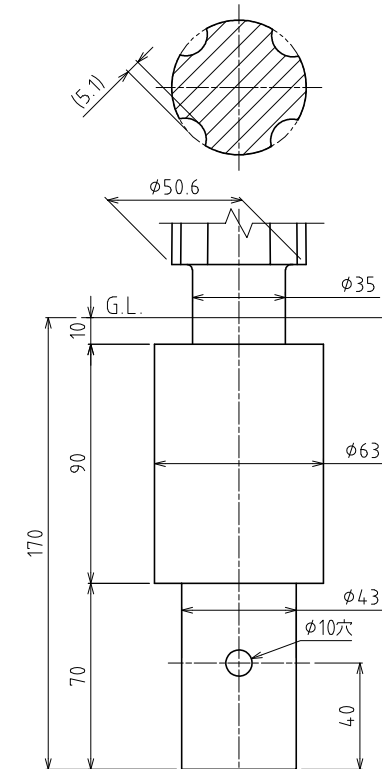
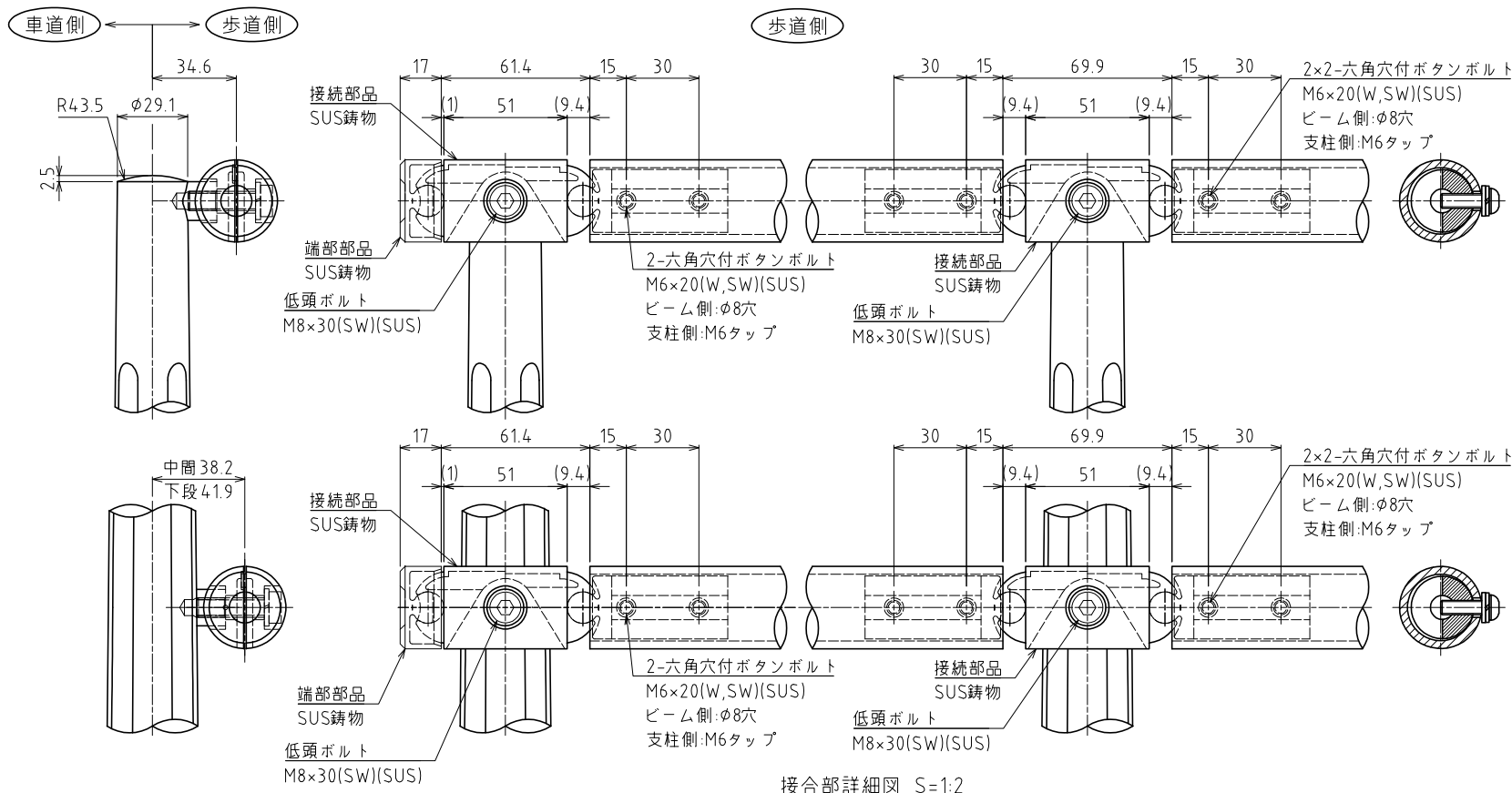
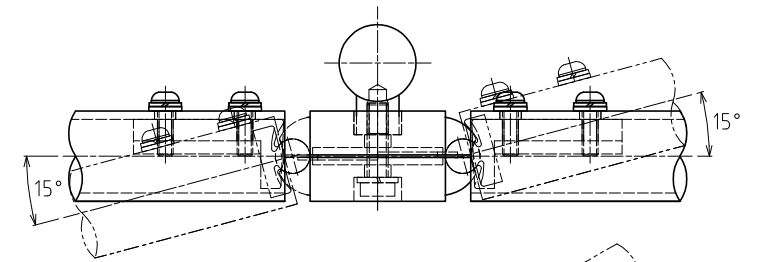
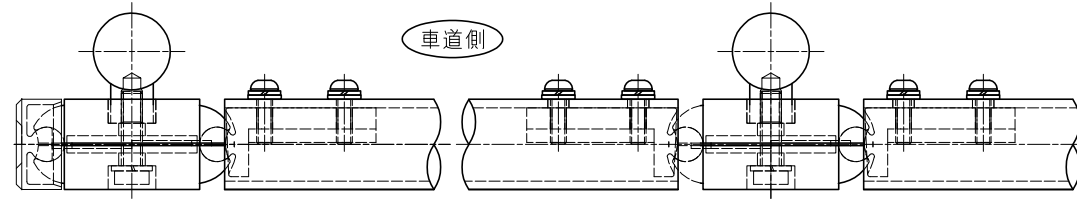
3舗装厚を考慮し基礎天端がG.L.下となる場合は、支柱下端に単管を用いて基礎への埋込み長さを調整する。

\*改良の為、一部仕様を変更する場合がございます。

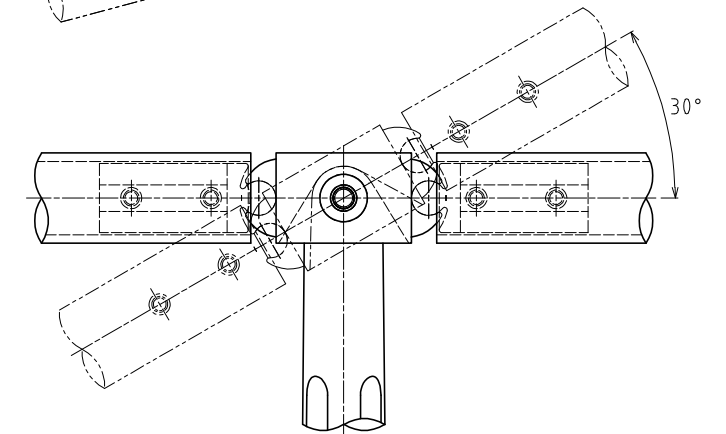
転落・横断防止柵 YF-GSC-110(基礎:ヒノダクパイルSP) S=1:15 (用紙A2)



勾配可動図 S=1:25



地際部詳細図 S=1:2



接続部可動域図 S=1:2

記事

1表面処理

鋼製部: 溶融亜鉛めっき (HDZT77, HDZ55) 後、ステンコート塗装仕上げ。  
ただし、板厚6.0未満は JIS H 8641 に基づく。

铸铁部: 亜鉛溶射後、ステンコート塗装仕上げ。

SUS 铸物部: プライマー処理後、ステンコート塗装仕上げ。

2指定色:

3 鋪装厚を考慮し基礎天端が G.L. 下となる場合は、支柱下端に単管を用いて基礎への埋込み長さを調整する。

\* 改良の為、一部仕様を変更する場合がございます。